

■ Tsuda Masashi 津田 正史

MEXT (科研費)

1. アンフィジニウム属渦鞭毛藻の有用二次代謝産物の探索と開発 (代表:津田正史) 基盤研究(B), 令和3~6年度, 3,200千円

Any Other Funds (その他の研究経費)

[Joint Research (共同研究)]

1. ^{17}O MRIによる薬効評価システム開発, (代表:津田正史), 株式会社Spectro Decypher, 4,000千円
2. 質量分析による海洋性貝毒の網羅的解析, (代表:津田正史), 基盤共同研究, 物質・デバイス領域共同研究拠点, 150千円
3. 渦鞭毛藻と貝類から新規医薬リード分子の探索研究, (代表:津田正史), 基盤共同研究, 物質・デバイス領域共同研究拠点, 150千円

Books (著書)

1. 津田正史, アンフィジニウム属渦鞭毛藻のつくる有用分子, 4次元統合黒潮圏資源学(佐野有司・徳山英一 監修), 中島出版, 90-104 (2022)

Conference Presentations (学会・講演会発表)

Domestic:

1. 津田正史, 熊谷慶子, 津田雅之, *Amphidinium* 属渦鞭毛藻より単離した新規 19員環マクロリド Iriomoteolide-7a の構造, 日本薬学会第 142 年会, オンライン, (2022/3/25-28)
2. 津田正史, 津田雅之, 中山登, 中岡溪, 中岡茂, ^{17}O -MRS による慢性期脳性麻痺モデルマウスの脳内 ^{17}O 水の観測, 第 50 回日本磁気共鳴医学会大会, 名古屋(2022/9/9-11)

Other Details (その他)

[Outside Comittee (学外委員)]

1. マリンバイオテクノロジー学会 評議員
2. 天然有機化合物討論会 世話人

■ MIURA Osamu 三浦 収

MEXT (科研費)

1. 古代湖・琵琶湖におけるカワニナ類の適応放散のメカニズム (代表: 三浦 収) 基盤研究(C), 令和2年度～令和4年度, 1,170千円.
2. 宿主巻き貝-吸虫類寄生虫系に注目した干潟生態系への気候変動影響の評価 (代表: 金谷 弦) 基盤研究(C), 令和2年度～令和4年度, 300千円.
3. 東アジアの古代湖「琵琶湖」の固有種成立過程の解明のための総合的研究 (代表: 高橋 啓一) 基盤研究(B), 平成30年度～令和4年度, 150千円.

Journal Publications (論文)

1. Matsuda, Y., Miura, O. Sexual dimorphism in the East Asian freshwater snail *Semisulcospira libertina*. *Journal of Molluscan Studies* 88 eyac028 (2022).
2. Sano, I., Saito, T., Ito, S., Ye, B., Uechi, T., Seo, T., Kimura, K., Hirano, T., Yamazaki, D., Shirai, A., Kondo, T., Miura, O., Miyazaki, J.-I., Chiba, S. Resolving species-level diversity of Beringiana and Sinanodonta mussels (Bivalvia: Unionidae) in the Japanese archipelago using genome-wide data. *Molecular Phylogenetics and Evolution* 175, 107563 (2022).
3. Sasaki, M., Miura, O., Nakao, M. *Philophthalmus hechingeri* n. sp. (Digenea: Philophthalmidae), a Human-Infecting Eye Fluke from the Asian Mud Snail, *Batillaria attramentaria*. *The Journal of parasitology* 108, 44-52 (2022).
4. Yamazaki, D., Ito, S., Miura, O., Sasaki, T., Chiba, S. High-throughput SNPs dataset reveal restricted population connectivity of marine gastropod within the narrow distribution range of peripheral oceanic islands. *Scientific Reports* 12, 2119 (2022).
5. 高木 響, 上野 和真, 三浦 収 浦戸湾における環境勾配に沿った底生生物群集の空間構造. *黒潮圏科学* 15-2, 30-39 (2022).

Books (著書)

1. 三浦 収, 琵琶湖に生息するカワニナ類の進化, 琵琶湖の生物はいつ、どこからきたのか? (西野 麻知子 編著), サンライズ出版, 86-96 (2022).

Conference Presentations (学会・講演会発表)

Domestic:

1. 高木 響, 上野 和真, 森田 浩平, 金谷 弦, 三浦 収, 琵琶湖固有種ヤマトカワニナの遺伝的分化と近縁種間でのニッチ分化のメカニズム, 2022 年日本プランクトン学会・日本ベントス学会合同大会, 高知 (2022/9/3-4).
2. 瀧澤 柁, 三浦 収, カワニナを宿主とする二生吸虫の寄生率と種構成の解明, 2022 年日本プランクトン学会・日本ベントス学会合同大会, 高知 (2022/9/3-4).

■ Teramoto Maki 寺本 真紀

MEXT (科研費)

1. バイオディーゼル燃料を主生産する菌を用いたバイオディーゼル燃料の大量生産系の開発 (代表:寺本真紀), 基盤研究(C), 令和3年度~令和5年度, 1,000千円.
2. 難分解性プラスチック分解菌の探索とその機能を利用した加工・リサイクル技術の開発 (代表:宮本憲二), 基盤研究(A), 平成30年度~令和4年度, 1,200千円.

Any Other Funds (その他の研究経費)

[Consigned Research (受託研究)]

1. 海洋細菌のもつ生理活性を利活用する研究 (代表:寺本真紀), 静岡県, マリンバイオテクノロジーを核としたシーズ創出研究, 6183千円.

[Scholarship Donations (奨学寄附金)]

1. 奨学寄附金, (株)ブリヂストン, 300千円.

Other Details (その他)

[Others (その他)]

1. 企業の研究相談を受ける, 1件, 2022/11/24.

■ Sakurai Tetsuya 櫻井 哲也

MEXT (科研費)

1. 遺伝子注釈の高度化に基づく渦鞭毛藻の増殖と有用化合物生合成に関するオミクス解析 (代表: 櫻井哲也) 基盤研究(C), 令和1年度~4年度, 3,300千円. 代表: 900千円

Any Other Funds (その他の研究経費)

[Fund within the University (学内プロジェクト経費)]

1. 新領域「ファイコミクス」による藻類の新価値創造(代表: 長崎慶三), 第4期基幹研究プロジェクト, 令和4年度~9年度, 90,000千円. 分担: 733千円

Journal Publications (論文)

1. Kinoshita, Y., Sato, Y., Sakurai, T., Yamasaki, T., Yamamoto, H., Hiraoka, M., Development of Blade Cells and Rhizoid Cells Aseptically Isolated from the Multicellular Leafy Seaweed *Gayralia oxysperma*, CYTOLOGIA, 87, 17-22 (2022).

Conference Presentations (学会・講演会発表)

International:

1. Matsubara, Y., Sakurai, T., Ulanova, D., Chemical communication in marine bacteria: bioassay-based study on bacterial interactions in co-cultures, JSBBA KANSAI 9th Forum, Kyoto (2022/11/28)

Domestic:

1. 圓山恭之進, 坂井寛章, 小林麻子, 櫻井哲也, 水上優子, 濱頭葵, 森賢一郎, 比較ゲノム・トランスクリプトーム解析による高温登熟耐性遺伝子の同定, 第 63 回日本植物生理学会年会, つくば(オンライン開催) (2022/3/22-24)
2. 伊佐早総司, 池亀柚香, 井深和佳子, 兼井秋斗, 高橋希恵, 櫻井哲也, 飯田博一, 近藤陽一, 有用な効果を植物に付与する 4-PBA 類似体の単離と解析, 第 63 回日本植物生理学会年会, つくば(オンライン開催) (2022/3/22-24)
3. 高野義人, 櫻井哲也, 池田彩乃, 遠藤寿, 外丸裕司, 緒方博之, 長崎慶三, 渦鞭毛藻 *Heterocapsa circularisquama* に感染するウイルス HcDNAV の単細胞トランスクリプトーム解析, 日本藻類学会第 46 回大会, 福井(オンライン開催) (2022/3/28-30)

Other Details (その他)

[Committee Activity outside the cluster (部門選出の全学委員)]

1. 総合科学系情報セキュリティ委員

[Others (その他)]

1. 特定国立研究開発法人 理化学研究所 環境資源科学研究センター 客員主管研究員 (2017.4-)

■ SAITO Tomomi 齊藤 知己

MEXT (科研費)

1. タイマイとアカウミガメのフレンジー（脱出直後の興奮状態）の解明と保全策の提示（代表：齊藤知己）基盤研究(C), 令和元年度～4年度, 3,300千円. 代表：今年度獲得直接経費（500千円）
2. 琉球列島の洞窟水圏環境における生物多様性の解明（代表：藤田喜久）基盤研究(B), 令和2年度～4年度, 13,500千円. 分担：今年度獲得直接経費（100千円）

Any Other Funds (その他の研究経費)

[Joint Research (共同研究)]

1. Unraveling the mysteries of North Pacific loggerhead sea turtle migrations (代表: Crowder, L.) National Geographic Grant, 2022～2023, US\$100,000. 分担:今年度獲得直接経費(\$5,000)

Journal Publications (論文)

1. Saito, T., Fujita, Y., A new shrimp of the genus *Odontozona* Holthuis, 1946 (Decapoda: Stenopodidea: Stenopodidae) from a submarine cave of the Ryukyu Islands, Indo-West Pacific, *Zootaxa*, 5175 (4), 439-452 (2022).

Reports & Others (報告書)

1. 齊藤知己, ウミガメ研究最前線4 高知県仁淀川河口浜の産卵環境, マリントーター, 32, 3-5 (2022).

Conference Presentations (学会・講演会発表)

International:

1. Briscoe, D.K., Turner Tomaszewicz, C.N., Seminoff, J.A., Parker, D.M., Balazs, G.H., Polovina, J.J., Kurita, M., Okamoto, H., Saito, T., Rice, M.R., Santos, B.S., Crowder, L.B., Small Turtles, Big Ocean: dynamic thermal corridor connects loggerhead sea turtles (*Caretta caretta*) across the North Pacific. Ocean Sciences Meeting 2022, Online (2022/2/28-3/4)

Domestic:

1. 友成実生子, 齊藤知己, 田中優衣, 米田彩花, 千原周, 岩崎木綿子, 四国太平洋岸に來遊するアカウミガメ個体群の血液生化学的分析, 第2回オンラインウミガメ研究発表・交流会 (2022/1/8)
2. 横井瞳, 笹井隆秀, 小淵貴洋, 真栄田賢, 水落夏帆, 河津勲, 齊藤知己, タイマイにおける孵卵温度と遊泳水温が孵化および幼体の運動性に及ぼす影響, 第2回オンラインウミガメ研究発表・交流会 (2022/1/8)
3. 齊藤知己, 四万十海底谷における栄養塩供給と基礎生産および動植物プランクトンの分布に関する研究, 土

佐清水ジオパーク推進協議会助成研究成果報告会, 土佐清水 (2022/9/25)

4. 横井瞳, 山口永晏, 齊藤知己, アカウミガメおよびタイマイ孵化幼体の表現型の評価に基づく最適孵卵温度の検討, 第114回土佐生物学会, 高知 (2022/12/10)
5. 平野晴真, 千原周, 杉浦功輝, 齊藤知己, 高知県室戸市の定置網で混獲されたウミガメに見られるフィロパピロマ罹患, 第33回日本ウミガメ会議やんばる大会 (2022/12/17-18)
6. 山口永晏, 横井瞳, 齊藤知己, アカウミガメ孵化幼体の生存率を高める最適な孵卵温度の検討, 第33回日本ウミガメ会議やんばる大会 (2022/12/17-18)

Other Details (その他)

[News Article (報道記事)]

1. NHK Eテレ, 地球ドラマチック「中国 希少動物を追い」, 部分監修 (2022/1/29)
2. 高知新聞こども新聞 よもつか, いきものだいすき「カメフジツボ」, 執筆 (2022/2/11)
3. NHK Eテレ, 地球ドラマチック「魔法の国の生き物たち～オーストラリア 変わる景色の中で～」, 監修 (2022/2/26)
4. NHK Eテレ, 地球ドラマチック「真夏のグレートバリアリーフ サンゴ大繁殖」, 監修 (2022/7/16)
5. NHK Eテレ, 地球ドラマチック「ガラパゴス・アドベンチャー」, 監修 (2022/7/30)
6. 高知新聞, 所感雑感「ウミガメの太平洋横断の謎解きに挑む」, 執筆 (2022/8/9)
7. NHK Eテレ, 地球ドラマチック「メキシコ発! 生き物たちの大移動」, 部分監修 (2022/8/27)
8. NHK Eテレ, 地球ドラマチック「生き物たちの“超”能力 水に生きる」, 監修 (2022/12/3)
9. NHK Eテレ, 地球ドラマチック「大自然満載! カナリア諸島」, 部分監修 (2022/12/10)

[Outside Committee (学外委員)]

1. 安芸市立学校給食センター運営委員会アドバイザー
2. むろと廃校水族館顧問
3. 高知県希少野生動植物保護専門員
4. 高知県野生生物分布調査有識者会議委員
5. 環境省希少野生動植物種保存推進員
6. 日本ウミガメ協議会理事
7. 日本甲殻類学会英文誌編集委員
8. 香港オーシャンパーク水族館環境保護基金助成研究審査員 Ocean Park Conservation Foundation, Hong Kong (OPCFHK), Research Grant Reviewer

[Regional Contribution (地域貢献活動)]

1. 高知市立中央公民館事業「いきいきセカンド☆ライフ講座」春コース「絶滅危機に瀕するウミガメについて学ぶ」, 高知市, 参加者40名, 講師 (2022/4/26)
2. 高知市立春野西小学校, 総合学習「ウミガメ採卵会」,

- 高知市,参加者 28 名, 講師 (2022/7/19)
3. 高知市立春野東小学校, 総合学習「ウミガメ採卵会」,
高知市,参加者 73 名, 講師 (2022/7/20)
4. 高知みらい科学館企画展「高知の海をカガクする」展
示協力;科学教室「ウミガメの赤ちゃんを観察しよう」,
高知市, 参加者 10 組 20 名, 講師 (2022/8/26)
5. 高知市立春野東小学校, 総合学習「ウミガメ学習会」,
高知市, 参加者 73 名, 講師 (2022/9/12)
6. 高知市立春野西小学校, 総合学習「ウミガメ学習会」,
高知市, 参加者 28 名, 講師 (2022/9/29)
7. 佐川町立佐川小学校, 総合学習「ウミガメ観察会」, 土
佐市, 参加者 54 名, 講師 (2022/10/14)
8. 土佐市立新居小学校, 総合学習「ウミガメ観察会」, 土
佐市, 参加者 31 名, 講師 (2022/11/1)
9. 愛知県立三谷水産高実習船「愛知丸」船上講義, 高知市,
参加者 29 名, 講師 (2022/11/29)

■ Namba Takushi 難波 卓司

MEXT (科研費)

Any Other Funds (その他の研究経費)

[Consigned Research (受託研究)]

1. 持続可能な環境保全に貢献する新規アンチエイジング化粧品素材の開発 (代表:難波卓司), NEDO, 官民による若手研究者発掘支援事業, 8,696千円.

[Joint Research (共同研究)]

1. 新規化粧品材料の研究開発 (代表:難波卓司), (株)丸善製薬, 1200千円 (間接経費を含む).
2. 藻類の新たな生理作用の探索 (代表:難波卓司), (株)sunlife, 600千円 (間接経費を含む).
3. 藻類抽出物の解析 (代表:難波卓司), (株)DIC, 1000千円 (間接経費を含む).
4. アンチエイジング剤の探索 (代表:難波卓司), (株)ロート製薬, 550千円 (間接経費を含む).

[Scholarship Donations (奨学寄附金)]

1. 皮膚線維芽細胞における老化とオルガネラコミュニケーションの破綻, 中富健康科学振興財団, 令和3年度~令和4年度 1500千円

Journal Publications (論文)

1. Machihara K, Kageyama S, Oki S, Makino H, Sasaki M, Iwahashi H and Namba T*. Lotus germ extract rejuvenates aging fibroblasts via restoration of disrupted proteostasis by the induction of autophagy. *Aging*. 26, 7662-7691. (2022).

Patents (特許)

1. 難波卓司, 恩田歩武. アンチエイジング剤, 特願 2022-170789.
2. 難波卓司, 隠岐翔馬. 抗生活習慣病剤, 特願 2022-063060

Conference Presentations (学会・講演会発表)

Domestic:

1. 難波卓司, 町原加代, 岩橋弘恭, ハス胚芽エキスは DAPK1-Becn1 経路を介したオートファジー誘導により老化線維芽細胞の機能を回復させる, 第 142 年日本薬学会, 名古屋 (2022/3/25-7).
2. 難波卓司, 町原加代, 岩橋弘恭, ハス胚芽エキスは皮膚線維芽細胞のオートファジー誘導を介した抗老化作用により, 様々な細胞機能を回復させる, 第 22 回日本抗加齢医学会総会, 大阪 (2022/6/17-19).
3. 難波卓司, CO₂ を削減し、環境負荷のない国産アンチエイジング素材の開発, 超異分野学会高知フォーラム,

- 高知 (2022/8/4)
4. 難波卓司, CO₂ を削減し、環境負荷のない国産アンチエイジング素材の開発, 超異分野学会香川フォーラム 2022, 香川 (2022/12/3)

Other Details (その他)

[Award (受賞)]

1. リバネス賞, 難波卓司, CO₂ を削減し、環境負荷のない国産アンチエイジング素材の開発, 超異分野学会香川フォーラム 2022, 香川 (2022/12/3)

■ Ulanova Dana ウラノバ ダナ

MEXT (科研費)

1. テルペンを鍵とした海底下微生物間相互作用「ブラックボックス」ロック解除機構の解明(代表:Ulanova Dana)、基盤研究(C)、令和3~5年度, 900千円
2. 生態分子に着目した“化石種にも使える”高精度有孔虫Mg/Ca水温計の開発 (代表:氏家 由利香) 基盤研究(B)、令和2年度~令和4年度, 500千円
3. 遺伝子から薬まで一微生物による有用化合物の生産について学びましょう! (代表:Ulanova Dana)、研究成果公開発表(B) (ひらめき☆ときめきサイエンス~ようこそ大学の研究室へ~KAKENHI)、令和4年度, 202千円

Reviews (総説)

1. Mathur V, Ulanova D. Microbial Metabolites Beneficial to Plant Hosts Across Ecosystems. *Microb Ecol.* 2022 Jul 22. doi: 10.1007/s00248-022-02073-x.

Conference Presentations (学会・講演会発表)

International:

1. Ulanova D., Marine actinomycetes from near-shore to subseafloor, NWO-JSPS Joint Seminar, 2022/3/3 (Online)
2. Matsubara Y., Ulanova D., Chemical interactions between marine invertebrate-associated bacteria evaluated by culture-based method, NWO-JSPS Joint Seminar, 2022/3/3 (Online)

Domestic:

1. 松原雄太、ウラノバ・ダナ、海洋無脊椎動物由来細菌における化学相互作用による抗生物質生産への影響調査、日本農芸化学会 2022 年度大会、2022/3/15-18 (オンライン開催)
2. Matsubara Y., Sakurai T., Ulanova D., Chemical Communication in marine bacteria: bioassay-based study on bacterial interactions in co-cultures, JSBBA KANSAI 9th Student Forum, Kyoto, 2022/11/27

Other Details (その他)

[Regional Contribution (地域貢献活動)]

1. ひらめき☆ときめきサイエンス~ようこそ大学の研究室へ~KAKENHI 「遺伝子から薬まで一微生物による有用化合物の生産について学びましょう!」, 令和4年7月23日(土)~24日(日)

■ Onodera Ken-ichi 小野寺 健一

MEXT (科研費)

1. 海洋アルカロイドの起源解明法確率研究 (代表: 小野寺健一) 基盤研究(C), 令和元年度~令和4年度, 0円(延長).

Any Other Funds (その他の研究経費)

[Consigned Research (受託研究)]

1. 海洋細菌のもつ生理活性を利活用する研究 (代表: 寺本真紀) 静岡県, 令和3年度 マリンバイオテクノロジーを核としたシーズ創出研究, 1,000千円.

Journal Publications (論文)

1. Yaegashi, Y., Kudo, Y., Ueyama, N., Onodera, K., Cho, Y., Konoki, K., Yotsu-Yamashita, M., Isolation and biological activity of 9-*epi* tetrodotoxin and isolation of Tb-242B, possible biosynthetic shunt products of tetrodotoxin from pufferfish, J. Nat. Prod., 85, 2199-2206 (2022).

Conference Presentations (学会・講演会発表)

Domestic:

1. 小野寺健一, 「海洋微細藻由来の天然抗アレルギーカロテノイド」 四国イノベーションピッチ 2022, 2022/2/10, オンライン.
2. 小野寺健一, 「共生微細藻の美白組成物」 イノベーション・ジャパン 2022, 2022/10/4-31, オンライン.

Other Details (その他)

[News Article (報道記事)]

1. 山本智之の「海の生きもの便り」第14話 太陽を食べる貝 2022年4月.
2. 山本智之の「海の生きもの便り」第15話 褐虫藻のミラクル 2022年5月.

[Outside Committee (学外委員)]

1. 日本農芸化学会 中四国支部 支部参与